

● 「で、できたー！」
● 冬の始まりのつめたい風がふきあれる中
● 一人の博士がさげんだ。
● 「どうしました、博士」
● 助手がふしぎそうな顔をして博士を見た
● 「わしは、究極のじしやくをつくった」
● 博士はふるえる手で小さなじしやくを持ち
● ち上げた。そのじしやくはほのかに青く
● 光を放ち、博士の手のひらをうつしだす
● 「じしやく？何が究極のですか」
● 助手はばかにしたように博士を見る。
● 「ふふふ、このじしやくはな、わしが言
● った全てのものを引きよせるのじゃ」
● 「まさか、ごじょうだんを。」
● 「じょうだんではない。まあ見てろ・・・
● ・・・・スズメバチよ集まれ！」
● 博士がさげぶ。しんと静まりかえる。
● 「ははは、博士、やっぱりこな・・・」
● 助手はそこで言葉をうしなつた。
● 外を見ると、何十万、いや何億ものハチ
● が空をおおい、空は真っ暗になっていた
● 「・・・それで、博士」
● 「ん？」
● 「このハチはどうするつもりで・・・」
● 「・・・知らん。」

問い 1 博士が発明したものは、

() じしゃくである

問い 2 この後、二人におこる事を予想しよう